

# 1 沿革

年	月	事 項	年	月	事 項
大正	8 (1919)	12 開港60年・自治制30周年記念事業として図書館の建設を計画。	昭和	35 (1960)	5 日吉閲覧所開設(44年9月団体貸出に移行)。
	10 (1921)	6 横浜公園内の建設事務所内仮閲覧所で図書の閲覧開始(横浜市図書館の開業)。		38 (1963)	1 新館増改築工事竣工。
	12 (1923)	9 関東大震災により建物と蔵書を焼失。		44 (1969)	8 団体貸出用広報『ひろば』創刊。
		12 中村町のバラックに仮閲覧所を設置し、閲覧開始。		45 (1970)	4 横浜市図書館報『こだま』創刊。
	13 (1924)	3 横浜公園内に仮本館が竣工し、落成記念に震災展覧会を開催。			8 移動図書館「はまかぜ1号・2号」による巡回貸出開始。
		4 閲覧業務を実施。		47 (1972)	10 『横浜市図書館行政の施策と展望(意見具申)』(横浜市社会教育委員会議)が出される。
		9 館外貸出を実施。		48 (1973)	11 「横浜市総合計画1985」策定。方面別図書館建設の方針が出される。
昭和	2 (1927)	7 旧老松小学校跡に横浜市図書館竣工。		49 (1974)	10 磯子図書館開館。市立図書館2館となる。
	5 (1930)	1 『横浜市図書館報』創刊。		52 (1977)	4 山内図書館開館。市立図書館3館となる。
	9 (1934)	11 巡回文庫開設(4隣保館に図書の一括貸出)。		53 (1978)	11 戸塚図書館開館。市立図書館4館となる。初めて貸出にコンピュータ方式を採用。
	12 (1937)	7 横浜市図書館を後援し各種文化事業を行う「横浜読書協会」を設立。		54 (1979)	5 戸塚図書館で視覚障害者サービス開始。
	14 (1939)	4 町村合併により、都筑郡都岡村、田奈村、及び鎌倉郡瀬谷村の各図書館を廃止し本館閲覧所として設置。		55 (1980)	1 鶴見図書館開館。市立図書館5館となる。
	19 (1944)	10 一般閲覧室を市会議場として使用。		5 金沢図書館開館。市立図書館6館となる。	
	20 (1945)	3 横浜連隊区司令部の接収により戸部小学校に移転。図書館の建物は、終戦後米軍に続いて市復興局が使用。		6 磯子図書館(フォトチャージング式(※1))、山内図書館(記名式トークン(※2))の貸出方法をコンピュータ方式に転換。	
		9 戸部小学校から教育会館に移転。		7 『こだま』『ひろば』を統合し、図書館報『よこはま』創刊。	
	22 (1947)	8 移転先より野毛に復帰。		8 港北図書館開館。市立図書館7館となる。	
		9 開架式で閲覧業務を再開。		9 中国・上海図書館との図書交換開始。	
	25 (1950)	4 館外個人貸出開始。図書館法公布で閲覧無料となる。		56 (1981)	1 中国・遼寧省図書館との図書交換開始。
	29 (1954)	10 団体貸出事業開始。読書週間行事として1日図書館長(女優 岸恵子)実施。		4 図書館間の連絡車が稼動。	
	32 (1957)	3 『郷土よこはま』創刊。		10 横浜市図書館創立60周年記念講演会・パネル展開催。	
	33 (1958)	8 巡回緑陰子供図書館を日吉の慶応大学構内等で実施。		12 「よこはま21世紀プラン」策定。1区1館建設及び中央図書館建設方針を確立。	
	34 (1959)	5 「サンディエゴ＝横浜友情文庫」を特設。		57 (1982)	5 保土ヶ谷図書館開館。市立図書館8館となる。
		7 貸出文庫用自動車購入。翌年1月から本格的に配本開始。		58 (1983)	2 戸塚図書館で団体貸出開始。
				59 (1984)	3 金沢図書館、港北図書館で団体貸出開始。
				60 (1985)	1 瀬谷図書館開館。市立図書館9館となる。
					3 保土ヶ谷図書館で団体貸出開始。
					10 港北図書館で視覚障害者サービスを開始。



横浜市図書館中村町仮閲覧所(大正12年頃)  
『横浜市図書館概要』(昭和2年)より



はまかぜ号の本棚に集まる人々たち(移動図書館はまかぜ号の巡回が始まった昭和45年頃)(中央図書館所蔵 日吉光夫氏提供)

年	月	事 項	年	月	事 項
昭和	61 (1986)	5 旭図書館開館。市立図書館10館となる。	平成	7 (1995)	4 都筑図書館開館。市立図書館17館となる。
	62 (1987)	10 「横浜市中央図書館基本構想委員会」設置。		5 緑図書館開館。市立図書館18館となる。	
		1 港南区図書館開館。市立図書館11館となる。		1区1館の達成。	
		4 地域図書館の火～木曜日の開館時間を午後7時まで延長(金曜日は以前から7時)。		8 (1996)	1 中央図書館で来館困難な障害者に対する配送貸出サービス開始。
		5 『横浜市中央図書館基本構想委員会報告書』提出される。		3 神奈川図書館で視覚障害者サービス開始。	
	63 (1988)	10 神奈川図書館開館。市立図書館12館となる。		5 中央図書館でCD-ROM検索サービス開始。	12 緑図書館で視覚障害者サービス開始。
		11 各図書館報を統合して横浜市立図書館報『横浜』創刊。「文化の日」開館開始。		9 (1997)	3 磯子図書館、移転再整備工事着手。
		12 保土ヶ谷図書館、金沢図書館で視覚障害者サービスを開始。		10 (1998)	3 図書館ホームページを開設、インターネットによる蔵書検索サービス開始。
		1 山内図書館改修工事竣工、団体貸出開始。		11 (1999)	3 鶴見図書館で視覚障害者サービス開始。
	平成	元 (1989)		3 横浜市図書館貴重資料展示会「100年前の横浜大探検」開催。	5 「庁内情報拠点化事業」開始。
2 泉図書館開館。市立図書館13館となる。			11 磯子図書館、磯子区総合庁舎に移転開館。「予約図書情報ダイヤル」サービス開始。		
3 栄図書館開館。市立図書館14館となる。		12 磯子図書館で視覚障害者サービス開始。			
『横浜市中央図書館資料収集検討委員会報告書』が提出される。		12 (2000)	3 瀬谷図書館で視覚障害者サービス開始。		
5 中図書館開館。市立図書館15館となる。		4 市立図書館全館で祝日等年間30日の開館日拡大。中央図書館の火～金曜日の開館時間を午後8時30分までに延長。			
11 「よこはま21世紀プラン」第3次実施計画策定により、中央図書館・分館を含めた図書サービスネットワーク確立の方針を打ち出す。		13 (2001)	12 市立図書館全館で月曜日開館開始。		
2 (1990)		1 中央図書館建設のため横浜市図書館休館。	14 (2002)	12 「横浜市中期政策プラン」策定。地区センターとの連携、図書館情報システムの改善を計画。	
		3 横浜市図書館仮設館開館。	15 (2003)	1 図書館情報システムを更新。	
		山内図書館で視覚障害者サービスを開始。	16 (2004)	3 蔵書検索結果の資料詳細画面に、目次、要旨、内容紹介等の情報を追加。	
3 (1991)		9 横浜市図書館を解体、中央図書館着工。	5 Eメールレファレンスサービス開始。	17 (2005)	4 ホームページにバナー広告掲載開始。
	10 泉図書館で視覚障害者サービス開始。	4 ホームページに「Yokohama's Memory《都市横浜の記憶》」を公開。			
4 (1992)	4 神奈川県図書館情報ネットワークシステム(KL-NET)に加入。	地区センター等蔵書情報を公開。	5 「地区センター等ネットワーク試行調査事業」先行実施。		
	10 中図書館で視覚障害者サービス開始。	9 図書貸出票に広告掲載開始。			
5 (1993)	10 栄図書館で視覚障害者サービス開始。	10 インターネットでの予約サービス開始。	12 「地区センター等ネットワーク試行調査事業」開始。(二俣川、東戸塚両行政サービスコーナーでの貸出・返却サービス、東急田園都市線3駅への返却ポスト設置)		
	12 南図書館開館。市立図書館16館となる。	18 (2006)	2 中央図書館でインターネット閲覧サービス開始。		
6 (1994)	10 横浜市図書館仮設館の個人貸出・閲覧業務を停止。	10 「横浜市中立図書館のあり方懇談会」開設。			
	1 各図書館で「横浜市立図書館情報システム」による窓口業務開始。				
	2 中央図書館一部開館。				
	4 中央図書館全面開館。図書館情報システム全面稼働。				
	12 南図書館で視覚障害者サービス開始。				
	「ゆめはま2010プラン」基本計画策定。				
	1区1館達成後、図書館8館の新設と地区センター等とのネットワーク整備を計画。				

【参考:『最新図書館用語大辞典』(図書館用語辞典編集委員会/編 柏書房 2004)】

※1 フォトチャージング方式:16ミリまたは8ミリのフォトレコーダーによって貸出記録をフィルム撮影して保管する図書貸出方式。

※2 トークン式:登録者に貸出券と貸出冊数分のトークン(プラスチック製の札)を渡し、利用者が本を借りるときは、貸出券を見せて、図書貸出冊数分のトークンを渡し、図書に貼ってある日限票に返却予定日を押してもらい、図書を返すときは、返した図書と同じ枚数のトークンを受け取る方式。

年	月	事 項	年	月	事 項
平成 18 (2006)	12	「横浜市中期計画(横浜リバイバルプランⅡ)」策定。「市立図書館のあり方検討」を計画。中央図書館「医療情報コーナー」開設。戸塚図書館再整備工事着手。	平成 22 (2010)	3	金沢図書館耐震補強等工事完了。
19 (2007)	1	地域図書館5館でインターネット閲覧サービス開始。	4	山内図書館で指定管理者による運営を開始、あわせて平日火～金曜日の開館時間を午後8時30分まで延長。	
	2	全館に「初めて出会う絵本コーナー」開設。中央図書館「外国語本コーナー」開設。			中央図書館司書補助業務委託、及び書誌作成業務委託導入。
	3	中央図書館「ビジネス資料コーナー」改装。	7	国民読書年事業として「ヨコハマ、本の虫宣言～2010年は国民読書年」を開催。	
	7	戸塚図書館再整備工事完了。	9	「横浜国立図書館司書人材育成計画」策定。	
	8	「横浜国立図書館のあり方懇談会報告書」の提出を受ける。	12	山内図書館で有料宅配サービスの試行開始。	
	10	全館で「ティーンズ・サービス」開始。「地区センター等ネットワーク試行調査事業」拡充。(青葉区内地区センター等6施設での貸出・返却開始)	23 (2011)	1	「横浜国立図書館アクションプラン」を策定。「横浜市教育振興基本計画」策定。図書館サービスの充実、交通の拠点となる鉄道駅での図書取次サービスなど、市民に身近で便利な図書館サービスの一層の充実についての検討を計画。
20 (2008)	1	中央図書館「音楽映像ライブラリー」改装。横浜国立図書館情報紙「@Lib」創刊。	3	「蔵書再構成5か年計画」を策定。「横浜国立図書館児童サービス5か年計画」策定。	
	4	中央図書館「PCリサーチコーナー」改装。	4	都筑図書館、戸塚図書館等司書補助業務委託導入。	
	6	16館に液晶モニター付きAEDスタンド設置。			行政サービスコーナーでの図書取次サービスをオンライン化。
	12	中央図書館「法情報コーナー」開設。			簡易版蔵書検索システム開始。
21 (2009)	3	保土ヶ谷図書館耐震補強等工事完了。図書館ホームページリニューアル。全地域図書館にインターネット閲覧サービス拡大。			横浜国立図書館メールマガジンの配信を開始。
	4	横浜開港150周年事業を開催。(～12月)	6	横浜国立図書館創立90周年記念事業開催。	
	10	開港150周年にあたって小学生から募集した「ヨコハマの子どもが選んだ150冊」を発表。			
平成 22 (2010)	2	文部科学省による図書館プロジェクト「図書館海援隊」(課題解決支援サービスに取り組む図書館で構成)に参加。			



現在の横浜市中央図書館